

各 位

(財) 財務会計基準機構会員



平成 19年11月21日

会 社 名 株式会社 栗本鐵工所
コード番号 5602 (東証・大証第一部)
代 表 者 代表取締役社長 横内 誠三
問 合 せ 先 コーポレートセンター
経営管理ユニット長 太田 晴啓
TEL (06)6538-7732

弊社の一部製品に関する検査機器の数値および板厚の改ざんについて

今般、弊社建材事業部の一部の製品に関して「旧日本道路公団向け高速道路用ホロースラブパイプの検査機器の数値および板厚を改ざんしている」事案について以下の通りご報告申し上げます。

1. 高速道路用ホロースラブパイプ (円筒型枠) について

本製品の使用目的はコンクリート橋の重量を軽減するために、コンクリート内に円筒状の空洞部を形成するための仮設材で、コンクリート打設時、一時的に形状保持するために用いられるものです。従って、コンクリート打設後養生期間を経て所定のコンクリート強度が確認された時点で不要のものとなります。本製品は、薄鉄板にて製造しており、他には発泡スチロール等も使用されております。本製品はコンクリート内に埋設されるため、構造的に取り出すことは不可能であり、コンクリート硬化後は、構造上、何ら意味を成さないため、コンクリートの中に埋められたままにされる事から、「捨て型枠」などとも呼ばれています。

2. 本製品板厚について

本製品の一部について、一昨年までカタログ仕様を下回る板厚のパイプを納入していたことが判明いたしました。現在、詳細に事実関係を調査中です。

3. 試験検査数値の改ざんについて

社内調査の結果、確かに検査数値の改ざんは存在しました。
円筒型枠曲げ試験については旧日本道路公団様にて昭和36年3月に制定されました。当初の円筒径は60cm程度が主流でしたが、その後、100cmを上回る大口径化の流れとなり、その際、弊社建材事業部において本試験の目的性を良く理解しないまま、業務を継続してきたため、本来、試験体に載荷すべき荷重値を減じ、結果、基準内におさめるべく、試験成績書の改ざん行為が判明いたしました。

4. コンクリート本橋の安全性について

現在供用されている多くのコンクリート橋の安全性が最も懸念されてますが、現在弊社の見解としましては、本製品は捨て型枠であり、構造部材ではございませんので、橋梁の安全性には問題ないと思慮いたしております。

5. 今後の対応ならびに再発防止策について

今後は、第三者機関による安全性が確認されるまで本製品の出荷をしない事といたします。
なお、再発防止策につきましては、検討中であり、策定次第迅速に対応の上、公表いたします。

6. 業績に与える影響

当期および将来の業績に与える影響につきましては、現在調査中であり、判明次第公表する予定であります。

今般弊社の行為で高速道路をご利用の皆様、国土交通省様、高速道路3社様、関係諸官庁様ならびに株主の皆様をはじめご関係の皆様にご不安とご迷惑をおかけすることになり、深くお詫び申し上げます。

以上